

# 聖地・神仏・認知

日本古代の「神仏」観念は、中世に至るまでに大きく変化したことが明らかになっている。ということは、「神仏」に付随する「聖」観念も、本来的なものではなく、歴史的なものに違いない。《認知拡張仮説》から、この問題を考える。

2024年3月20日（水・祝）

時間：13時～16時（予定）

場所：奈良女子大学

N302（文学部N棟3階）

申込み不要・参加費無料

【パネラー】

西谷地晴美（奈良女子大学）

「神仏と人と聖なるもの

—日本史における認知歴史学の可能性—」

齊藤恵美（奈良女子大学）

「神観念の変遷 —熊野信仰を例として—」

【コメンテーター】

村上麻佑子（奈良女子大学）

